

1 DAY NIKKEI

エイズの起源

本書によると、エイズとH1

V(ヒト免疫不全ウイルス)が医

学的に認識されたのは1981年

6月だ、という。新種の感染症患

者を報告したCDC(米国疾病

管理予防センター)の通報である。

それから30余年、抗H1V薬も

開発されたが、世界で2900

万人以上が死するパンデミック

(世界的大流行)を起した。

著者はH1Vはいっ現れ、どの

とくに世界に広まったかを考え

てきた。その考証は、80年代前半、

アフリカのサヘル・コンゴ民

主共和国)での医療経験と膨大な

資料を踏まえて著者は展開する。

H1VはSIV(サル免疫不全

ウイルス)が相だ。開発が進み、

中部アフリカに生息するシゴチ

ンパンジ、モヒトの食用の対象に

なった。銃器類を用いて捕獲、解

体を行く際、SIV感染の血液を

含めた体液と接触して種を超えた



エイズの起源

Eric H. Huk

原題=THE ORIGINS OF AIDS

(日本太郎、ちくす書房、

4000円)

▲著者は内科医でカナダのシ

ヤトルック大教授。

アフリカでの種を超えた感染

感染が成立した、それは1921

年ごろ、と著者はまず分析する。

限られた感染者から、なぜ世界

に広まったかが謎だ、という。

著者は、欧州列強のアフリカで

の風土病対策も含めた植民地医療

を考察した。中でも、仏領中部ア

フリカでの近代医療の導入は全在

民の健康を対象としたが、消毒不

十分な注射針による注射の回し打

ちがH1V患者を増やす「史上最

大の医療性流行」を起し、著者

がこれに輪を掛けた。そして60年

代、カリブ海諸国がコンゴの国家

建設を支援し、多くのハイチ人が

コンゴに渡り、コンゴ女性と性的

関係を持つ。H1Vはハイチに渡

り、米軍本土を前線に収めた。

エイズの始まり、種を超えた感

染については、「ヒトが動物とせ

味本位も含めてこれまで語られて

きた。だが、アフリカを知る著者

が野生のモンパングの性質の荒

さを指摘もし、その可能性の低さ

を考えさせた意義は大きく思う。

有史以来多くの感染症が地球上

に現れたが、この新興ウイルスは

開発、貧困、国際協力など人間の

社会活動と密接に関与して、短時

間で人類を脅かす存在となった。

その事実の重さは、380頁超の

本書の紙幅そのものである。

ジャック・ペパン著

エイズの起源

エイズ専門作家
小林 照幸